

JICA八王子主催 2005年スリランカ研修・研究発表会

2006. 2. 10
町田市立南中 源田洋二郎

国際理解学習指導案

1 授業主題

国際化がさらに進むに世界において、外国の生活や文化を正しく理解し、取り入れていくことは大変重要である。外国人の方やその言葉・生活ぶりに直接触れ、国際理解につなげていきたい。更にその架け橋として活動している独立行政法人・国際協力機構（JICA・通称 ジャイカ）の活動を紹介し、国際協力が、何のために、どのように行われているかを知り、世界の中の日本の立場と役割を理解する。また、国際社会の一員としての自分と世界との関わりを考える。

2 授業学年・単元

中学1年生（6学級 216名・社会科及び総合的な学習の時間）

3 授業の視点

世界には、経済力や資源に偏りがあり、歴史的な発展過程のなかで、豊かな地域と、発展途上にある地位が存在する。その中で、現在日本がどのような協力活動をしているかを知る。また、日本と同じアジアにあるスリランカを例として取り上げ、その自然や文化に触れ、青年海外協力隊員の方やスリランカの方のお話を聞き、日本との共通点や違い、日本との関わりについて考える。

4 授業の目標

- (1) ジャイカの活動についてその概要を理解する。
- (2) スリランカの自然や文化に触れ、日本との関わりを知る。
- (3) 日本と世界の国々との関わりについて考える。

5 授業計画（4時間構成）

時限	授業主題	学習内容	指導上の留意点	授業日
1	JICAの存在、活動について学ぶ。	* JICAがどんな活動をしているのか知る。 * JICAの活動について考えてみる。質問を考える。	* 青年海外協力隊の活動を説明する。 * ビデオを見る。	2005年 12月 8日 (木)
2	スリランカの講義	* スリランカの位置、自然、歴史等についてワークシートを使って学ぶ。 * スリランカと日本の違いについて考える。	* スリランカという国をイメージしてみる。	12月 9～21 日
3	JICA職員・西村さんとスリランカの方の対談	* 西村さんとスリランカ人シルワさんの紹介 * 西村さんとシルワさんのお話 * 質疑応答	* 源田が司会をし、スリランカの文化に興味を持たせるようにする。	2006年 1月 12日 (木) 5校時
4	授業のまとめ	* 授業を振り返り、JICAの活動や、日本とスリランカの違いは何かを考える。 * 感想文を書く。		6校時

6 1, 2 時限の学習指導案

第1時限 2005年12月8日(木) 3, 4校時 場所: 体育館多目的室、各教室 * 2校時後、筆記用具をもって、すぐに多目的室に集合。班ごとの位置で着座する。		
学習内容	授業の展開	必要なもの、留意点
JICAの活動について知る	導入(10分) * 自己紹介 * スリランカの津波現場の映像を見せる。 * インド洋大津波の概要の説明 展開(30分) * 班ごとにプリントを配り、その絵の中の吹き出しに言葉を入れていく。 * プリントを集め、いくつかを全員の前で紹介していく。 * JICAの冊子を配り、講義をする。 (1) 開発途上国の現状(子どものもの死亡率、識字率) (2) 水、教育、紛争 (3) 日本人がどんなことをしているか。 * JICAのビデオを見る。 終末(10分) 今日の授業で解ったことや、疑問に思ったことをワークシートに記入する。	プロジェクター、スリランカの映像 JICAの冊子からつくったプリントを配る。 JICAの冊子 ワークシート JICAのビデオ

授業の評価: ジャイカの活動についてその概要を理解することができたか。

第2時限 2005年12月9日(木)~21日(水) 場所: 1年生各教室 * 各学級の社会科の時間。資料、地図、写真を使いながらスリランカの概要をつかむ。授業者は、川嶋先生。		
学習内容	授業の展開	必要なもの、留意点
スリランカについての学習	導入(5分) * 子どもたちのスリランカのイメージを聞き、板書していく。 展開(35分) * 各班にスリランカの写真を1枚ずつ配り、何がどうなっているかを考え、説明させる。(フォトランゲージ) * プリント、資料を配り、それを見ながら、ワークシートを完成させていく 終末(10分) * スリランカと日本の違いを考え、疑問に思ったことをワークシートに記入する。	スリランカの拡大写真 『地球の歩き方』 ワークシート

授業の評価: スリランカの自然や文化の概要を、理解することができたか。

7 3, 4時限の学習指導案（1月12日、当日の予定）

時 間	講師・西村さん、シルワさん	1 年 生
13:00 頃	南中学校到着（出迎え：源田） 校長室ご案内	（午前中）体育館多目的室準備（源田） プロジェクター準備（中原先生、菱沼君）
13:15	着替え（職員更衣室）	多目的室に集合（特に持ち物なし） クラス、背の順に整列着座（整列：川嶋先生）
13:20 25	西村さん、シルワさん入場（案内：源田）	簡単に今日の授業の説明、注意（川嶋）
27	授業開始	
14:40	授業終了 西村さん、シルワさん退場（そのほかの 参観者の先生も退場） 研究協議会（2階会議室）	1組から退場（機材片づけ：副担任の先生） 各教室に戻って、感想等を書く。
16:00	協議会終了	

*西村さんからの生徒への質問

「スリランカのお葬式の時の色は何ですか。」

「スリランカでは髪を整えるのにあるものを使います。それは何ですか。」

「シンハラ語には、『おなか行く。』という表現があります。これはどんな意味でしょうか。」

*生徒からの、JICA（西村さん）への質問

「JICAが活動するための資金はどこから出ているのですか。また、JICAには、どうやって入れるのですか。」

「活動していてすごく困ったことは何ですか。また、良かったこと、うれしかったことは何ですか。」

「発展途上国に対して、私たち（町田南中の1年生）ができることは何だと思えますか。」

*生徒からシルワさんへの質問

1. 食べ物に関して

「カレーは飽きませんか。カレー以外の食べ物はありますか。日本食と比べてどちらがおいしいですか。辛いものが食べられない人はいないのですか。どうして食べ物を手で食べるのですか。」

2. 遊び、学校に関して

「子どもはどういう遊びをしているのですか。学校ではどんなことを学んでいるのですか。何で大学まで無料なのですか。」

3. 日本とスリランカに関して

「日本は好きですか。またスリランカは好きですか。その理由を教えてください。」

4. 国旗に関して

「ナイフをもったライオンみたいなものは何ですか。」

2006年1月12日(木) 5、6校時 場所: 体育館多目的室 *1:15 多目的室に集合。朝礼体形で着座する。		
学習内容	授業の展開	必要なもの、留意点
スリランカの実際について知る。	導入(10分) * JICA職員西村さん、スリランカ人留学生シルワさん、代表生徒 吉田さん・上良さんの紹介をする。 * それぞれの人に自分のプロフィールを話していただく。	司会: 源田
シンハラ語の会話(10分)	* 西村さんとシルワさんにシンハラ語で会話をし ていただく。 西村 「こんにちは。お元気ですか。」 シルワ 「こんにちは、元気です。」 西村 「日本はいま寒いですね。」 シルワ 「そうですね。でも、スリランカでは今 も暑くて、ヤブ蚊が発生しています。」	会話の内容を代表や生徒 に当ててもらおう。
西村さんからの質問(10分)	* 西村さんに、スリランカに関する質問を生徒にし てもらい、生徒に答えさせてから、シルワさんに 正解を言ってもらおう。	
生徒からの質問(10分)	* あらかじめ出してあった、JICAに関すること やスリランカに関する生徒からの質問をあげ、西 村さんとシルワさんに答えてもらおう。	
西村さんとシルワ さんのお話 (20分)	* 西村さんから、協力隊員の活動から学んだことを 話していただく。 * シルワさんからスリランカの魅力について話し ていただく。	
今日の授業のまとめ	終末(5分) お礼の言葉、生徒代表 松安君 * 教室に戻って、今日の授業から解ったことや感想 をワークシートに記入する。	

授業の評価: スリランカについて興味を持ち、日本との違いが理解できたか。

授業者自評

このような特設授業を行うといつも思うことだが、プランを立てて計画、そして来賓の方や学年の先生との連絡調整、決定がなかなか大変だった。子どもたちへの反響はだいたい予想通りであったが、もう少し本番の演出に工夫をすればよかった。それにゲストの西村さんと、スリランカ人のシルワさんとの連絡を設定しておらず、当日シルワさんの到着が遅れたこともあり西村さんにご迷惑をおかけしてしまった。

今回できた、スリランカに学ぶスタートラインを、子どもたちの、より広い視野から見つめた国際理解にどうつなげていくか、これからも試行錯誤していきたい。

国際理解学習「スリランカに学ぶ」

～生徒の感想より～

- 1 『スリランカの人がある。』そう聞いたときは、マジでとても楽しみだった。そして授業が始まったとき、入ってきたのがどう見ても日本人で、『あれ？スリランカの人ってこんなに日本人っぽいな。知らなかった。』と思っていた。でもその人は違うと聞いて、なぜかほっとした。後からスリランカの人があるときはドキドキだった。でも想像していたのとちょっと違って、へー。と思った。そしてこの授業でいちばん面白かったところ。スリランカの言葉での会話。もう何言ってんだか全然分からなくて、ちんぷんかんぷん。わずかに聞こえる言葉で、日本語として考えていたとき、あっ、これ日本語じゃねーかと気づく。外国語っておもしろい。喋るとなると別だが。
あと、スリランカの人がある納豆も食べられると言ったので、あつこの人いい人だ。と何かか思った。いろいろと話を聞いて、いろいろと考えた。**そして結論。やっぱり外国行きたい。**たとえ言葉がなくても、心があれば、きっと何とかなる。
4組・田淵さん
- 2 「スリランカでは蚊に刺されただけで、2週間も入院するのに驚きました。日本では蚊に刺されてもかゆいだけなのに、スリランカでは入院しなきゃいけないことが分かった。日本とスリランカ、全然違うんだと思った。**スリランカでは食べ物を手で食べる理由が分かった。**自分の手を洗って、手で食べた方がスリランカ人は、安心だと思っているから、はしを使わないで、手で食べ物を食べることが分かった。
5組・荒木君
- 3 「僕は、12月の時のスリランカの授業をやったときは、スリランカ人や、ジャイカの人がある来なくていいと思った。理由は、ジャイカの人がある忙しそうだし、スリランカ人は、日本に来るのが大変そうだったから来なくていいと思った。でも本当は、自分がいやだっただけだった。そしてスリランカ人がやってきた。スリランカのことやジャイカのことをいろいろ聞いた。僕はスリランカ人が来てよかったと思う。そしてスリランカに行きたいと思った。今回の授業で分かったことは、スリランカはいい国だということだ。**スリランカは、大学まで学費がただだし、カレーがある。**そんなところがいい国だと思う。
3組・吉田君
- 4 「スリランカは、服装が違うし、字が難しいと思った。アーユーボアンが、こんにちは。とかこんばんは。とか言う意味だった。バナヤナワーは、『おなか行く。』という意味で、おなかをこわすという意味だった。西村さんは、シンハラ語も日本語もしゃべれてすごいと思った。アーユーボアンの本当の意味は、『長く生きて。』という意味だった。**シンハラ語はよく分からないと思った。**スリランカの国旗は、ライオンみたいな動物が剣を持っていた。あとしっぽが丸まっていた。
6組・山本君
- 5 「今回ジャイカの方と、スリランカの方のお話を聞いて、一番印象に残ったのは、国旗の話でした。国旗に描かれているライオンは王の強さを表し、しっぽが曲がっているのは、優しさを表していると教えてもらったとき、世界の国旗にいろいろな意味があるんだなあと思いました。その次に印象が残っているのは服装のこと。女性の民族衣装サリーは、全長6メートルもあると聞いたときは、びっくりしました。満月の日は必ず学校も仕事も休みで、夜には真っ白な服を着てお寺に行くと聞いたときは、不思議な習慣だなあと感じました。他にもいろいろな話を聞いてびっくりしたり、感心したりして、とても楽しい2時間でした。」
5組・菅原さん

- 6 【スリランカの人々の暮らし】 「昨日、私はスリランカの人々の話を聞いて思いました。『スリランカの人たちはカレーライスをいっつも食べているのに飽きないなんてびっくりしました。』日本だったらたいてい3日で飽きてしまうと思います。それなのにスリランカの人々は、すごいと思います。地理で勉強したとき、私はスリランカの学校について話しました。学校では一人一人が教科書をもっているわけではなかった。たぶんスリランカにはお金がないのだと思う。だから教科書をもっていないのだと思う。スリランカは大変だ。だから、スリランカの人々のために私たちができることをしたいと思う。今の日本より大変な国があるのにびっくりした。」

2組・美澤さん

- 7 「スリランカの女の着物は日本人の普段着っぽい感じだけど、男のは、結構独特で、まあ普通でした。もし逆に日本人がスリランカに行ったら、向こうは、日本の服を見ていったいどう思うのかちょっと気になります。やっぱり差別や石を投げてるのでしょうか。やられたらやり返したくはなるけど、日本人数人でどうていかなうはずがありません。だから、周りの人たちもきっと、スリランカに行きたいとかいう奴はいないと思います。スリランカの人々は日本の支えもあって生きているんだから少しは日本のことも考えてほしいです。差別などをなくしたいのであれば一生のうち一度は行ってあげてもいいんじゃないかと思います。なので、もっともっと今よりも日本とスリランカが仲良くなれることが大事だと思います。」

1組・小濱君

- 8 「ジャイカの人や、スリランカの人々の話を聞いて、私は日本とスリランカの違いの大きさに少しびっくりした。たとえば、スリランカにはムースなんてなく、椰子の木の実の油を頭に付ける。お葬式の時に着る服は白だし、お寺に行くときも白色の服を着なければいけない。お寺の色も日本の茶色っぽい色とは違い白色だ。民族衣装も全然違った。でも、スリランカの人々にとっては当たり前なことだから、逆に日本の習慣は、スリランカの人々にとって不思議なものなのかもしれないと思った。他に、スリランカの人々は健康的だとも感じた。それは便秘をしないからだ。日本人は、けっこう思う。日本人の生活よりもスリランカの生活のほうが健康的なのかもしれないと思った。話を聞いたことによって、日本がとても豊かな国であることも分かった。国際協力の大切さがとてもよく分かってよかった。」

3組・鈴木さん

- 9 【スリランカから広がる】 「私はスリランカを題材とした、国際授業を通して、自分の思っていた考えがガラリと変わった気がする。クラスでの地理の授業でジャイカの人々への質問を書くとき、私は、『私たちにできることはありますか。』と書いた。私は正直『ジャイカの人々が頑張って、いろいろなことをいろいろな国で教えている。けれど、私たちができることなんてないだろうな。』と思っていた。けれどジャイカの西村さんの話を聞いて、『私たちもジャイカ、そしてスリランカなどに少しくらいは協力している。』と思うことができたことがとても嬉しく感じた。そして何よりも、国と国とが互いの国を理解し支え合って、このような授業ができたのも勉強になった。」

1組・森田さん

- 10 【スリランカの勉強を通して思ったこと】 「ジャイカの人たちが助けに行っているのに、スリランカの人たちは石を投げて、『おまえは日本人だろ、帰れ。』といわれたそうですが、人を最初から信用できるはずがありません。それにシルワさんとかいい人もたくさんいるということが分かってとても嬉しいです。もっと人と仲良くなってシルワさんみたいな人になりたいなあと思いました。スリランカの方ではまだテロなどが続いているのですが、悪い人がまだまだたくさんいて、今もテロをしているんじゃないかと気になったりもします。悪い人たちがみんな捕まればいいのと思います。シルワさんみたいな人たちが死んでほしくはありません。今回の授業を通して人生観が変わりました。これから今までよりもっと募金をしたいなあーと思えるようになりました。もっと多くの方がそう思えるような世界にしたいです。」
2組・安部君
- 11 「スリランカのことを結構調べた気でいたけど、実際にジャイカの人やスリランカ人に話を聞いていたら、知らないことがたくさん出てきた。特に満月の日に神社にお参りに行くとか、髪を固めるものは、椰子の木の幹を使っているっていうことは興味深かった。スリランカの民族衣装は、女が黒い服で、男は白っぽい服に、マフラーみたいなことをつけるのを知った。スリランカのカレーにはいろいろなトッピングがあり、日本のカレーみたいにすぐに飽きないらしいです。挨拶の、『アーユーボワン』には、いろいろな意味があり、一つは神に祈るという意味もあるそうです。後は、学校に行くときに白い制服で行くっていうのが驚きました。まとめて、昨日は、スリランカのよいところばかりでしたが、まだまだ悪いところがあると思うので、昔は他の国に支援された日本だからこそ、スリランカなどの発展途上国に支援していかないといけないと思います。」
4組・真砂君
- 12 「私はシルワさんの話の中の、どんなに辛くとも嫌なことがあっても、みんな笑顔って言っていて、それが心に残りました。それにスリランカは少し差別とかがあって聞いて悲しくなった。私は普段日本のこの生活以外の国の生活なんて考えない。だけどシルワさんの話を聞いて、『こんな生活もある。』ってことが分かった。他に、西村さんも実際にスリランカに行って、石をぶつけられたりして、こんなことがなくなればいいと思う。西村さんは蚊などに刺されて病気になっちゃったりして、刺されて病気になるなんてびっくりした。日本と違うところもあるけど、似ているところもあるし、それぞれの国に違った文化があるということが分かった。今回の国際理解がなかったら、私はずっとスリランカについて分からなかったと思う。西村さんの話にもあったように、知ることが大事だと思う。国際理解には知るってことが大事だとよく分かりました。」
6組・関口さん

平成17年度 教師海外研修（派遣国：スリランカ）実践報告書

1. タイトル スリランカから世界を見つめよう
2. 氏名：井田 久雄
3. 学校名：日野市立三沢中学校 担当教科：数 学
4. 実践教科：総合的な学習の時間 時間数
5. 対象生徒・学年 中学2年生 対象人数：218名
6. カリキュラム案

（1）実践の目的

- ①マクロ的な学習 ・開発途上国の文化・歴史・生活などを学習することにより、途上国についての知識・理解を深め、国際的視野を広げる。また、お互いに発表し合うことによって途上国への関心を高める。
- ②ミクロ的な学習 ・スリランカを学ぶ。
 - * スリランカの生活や教育の現状、貧困の実態等を学習し、日本と対比させる事によって自分達の生活を振り返る。
 - * NGOやJICAなどスリランカへの支援活動を行っている日本人の生き方やTSUNAMI被害に対する日本の援助活動を学び、国際貢献のあり方や自分達の生き方を考える。

（2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 「世界を知ろう」 ワールドガイドマップ 作成の導入。	発展途上国の紹介ビデオを各クラスで見る。 (1組…アジア 2組…大洋州 3組…中近東 4組… アフリカⅠ 5組…アフリカⅡ 6組…南米) 各クラスで班毎に各自が書いたワークシートを元に話し合い、どの国について調べるか決定する。	・JICA：各国紹介ビデオ ・ワークシート ・振り返り用紙
3～6時限目 「ワールドガイドマップ 作成に向けての調べ 学習。」	各班毎に決定した国について、インターネットや、学校図書館、地域の図書館等で調べ学習を行い、「ワールドガイドマップ」作成の準備を行う。	・振り返り用紙
7～10時限目 「ワールドガイドマッ プ作成」	調べたことを元に「ガイドマップ」の作成に入る。 4つ切り画用紙3枚をつなげた大きさにまとめる。	・振り返り用紙

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 1 時限目 「発表準備」	ガイドマップの発表の準備。発表方法、分担の検討、発表原稿作り。	・ワークシート
1 2～1 3 時限目 「発表会」 途上国の理解を深め、興味関心を高める。	「ワールドガイドマップ」発表会。 各クラスで、班毎に発表。一班5分で発表、質問に1分。聞いている生徒は発表の内容について評価。(ワークシート記入)	評価用紙
1 4 時限目 スリランカについての問題をクイズ形式で実施。スリランカに興味と関心を持たせる。	スリランカに関するクイズ「スリランカ・ワカランカ」を実施し、スリランカの生活や教育等について考える。	プリント
1 5・1 6 時限目 「スリランカの生活」 「スリランカの教育」 交通事情、衣食住、文化等について知る。	(1) (全体指導) パワーポイントを利用して、前時のクイズに答えながらスリランカの生活の様子・学校の様子を映像や実物を通して学習する。 (2) (学級指導) 日本との相違点、感じたことなどをまとめ、各クラスで話し合う。	・世界地図 ・パワーポイント ・サリー、サロマ ・スリランカのお札等小物類。 ・ワークシート
1 7・1 8 時限目 「プランテーション」 「TSUNAMI」 プランテーションの実態を知り差別について考える。 津波被災地の様子から、国際貢献について考える。	(1) (全体指導) ・プランテーションについて学習。 ・パワーポイントを利用し、紅茶プランテーションのエステートの実態について学習する。 ・スマトラ沖地震の概要説明。 ・スマトラ島沖地震のビデオをみて、被災地の現在の様子、生活の実態をスライドを通して学ぶ。 (2) (学級指導) ・エステートの実態について思ったことをまとめ、発表する。なぜ差別があるのか、どうしたらなくなるのかということを考える。 ・被災地の様子、そこに生きる子ども達の様子から自分達ができることは何かということを考える。	・プリント ・パワーポイント ・ビデオ ・ワークシート ・紅茶
1 9・2 0 時限目 「働く日本人」 JICA 職員、青年海外協力隊員、ODA 職員の活動から生き方を考える。	(1) (全体指導) ・大隅紀和氏の黒板プロジェクトについて紹介。 ・青年海外協力隊員や海外シニアボランティアの活動を紹介する。 ・国際 NGO CARE Japan 栗原氏の活動の紹介。 (2) (学級指導) ・自分の生き方について考える。	・パワーポイント ・ワークシート

7. 授業の詳細

『マクロ的な学習』 ～世界を知ろう～

外国というと欧米にあるような先進国がまず真っ先に頭に浮かぶ者が多い。しかし実際には開発途上国といわれる国の方がはるかにその数は多いのだが、日本に生きる中学生にとって、なかなかそういった国の文化や生活については知らないというのが実態である。国際理解教育を進めていく上でまず必要なことは世界の様々な国を知ることであるといえる。ここではその開発途上国にスポットを当て、開発途上国についての学習を進めていく。

1～13時限「ワールドガイドマップの作成」

まず動機付けとして、開発途上国の紹介ビデオの視聴。(JICA 八王子より借用したものを編集)

1組…アジア 2組…大洋州 3組…中近東 4組…アフリカⅠ 5組…アフリカⅡ 6組…南米と割り振って、ビデオを視聴させ、それぞれの国についての感想をまとめさせる。4人組のグループに分かれ(各クラス9グループ)、割り振られた地域の中から自分達の調べたい国を検討。こうして、各クラス9カ国、学年で全54カ国の開発途上国を決定し、ワールドガイドマップの作成に入る。

4切り画用紙3枚にまとめ、ガイドマップを作成。各クラスで発表し合いすることによって、様々な途上国についての理解を深める。、同じ地球上には様々な人種がいて、様々な生活があるということを知る。

【生徒の感想】

☆エルサルバドルという、今まで聞いたことのない国を調べましたが、今まで知らなかったことでも、調べてみたり、それを知ろうと努力すれば自然と理解を深められるようになる、ということが分かりました。エルサルバドルは日本とも交流があり、貿易もしているということを知って、とてもびっくりしました。調べれば調べるほど分からないことが沢山出てきて、皆で教えあったりしてとても楽しい総合の時間でした。また他の班の発表も聞くことによって、様々な国の文化や様子などを知ることができて良かったです。

☆世界には色々な国があるが、それぞれ少しずつ違い、いろいろな文化があるのだと、みんなが作ったマップを見て思いました。世界を知ることが大切だし、楽しい発見ばかりだなあと思いました。(世界は全く平等ではなく、日本は裕福だがその分忘れかけているものがあると思った。)



『ミクロ的な学習』 ～スリランカを考えよう～

「ワールドガイドマップ」の作成及び発表によって、開発途上国についての知識や理解はある程度身に付いてきており、世界の国々に対する興味や関心も高まってきた。しかしこれまでの学習はあくまでもインターネットや書物での調べ学習にすぎず、現実的なものとしてはなかなか捉えにくい所もあるのではないかと思われる。そこで次からはスリランカに的を絞って、自分が実際に現地で見えてきたもの、感じてきたものがそのまま伝わるようにパワーポイントを活用しながら授業を進めていく。

14時限「スリランカ・ワカランカ」

～スリランカってどんな国？～

スリランカという国を学習する導入として、スリランカについての問題をクイズ形式にて実施。実際に現地に行き、見てきたことや聞いてきたことを中心に出題。これによって、スリランカに対する興味や関心が高まり、「スリランカを理解しよう」といった気持ちで次の授業への期待につながった。

15・16時限「スリランカの概要」「スリランカの教育」

14時限目に行った「スリランカ・ワカランカ」の問題に答えていく形式で、スリランカの概要及び教育について説明。パワーポイントを利用して学年全員の前で食堂にて実施。

◎スリランカは一体どこにある？・どんな人たちがいるだろう？・スリランカの交通事情・女はサリー、男はサロマがかっこいい。・不思議と飽きないカレーの味だ。・そして町は果物であふれていた。・市場に行けば何でも揃う。・なんと日本食まであった。・トイレに文化を見たり！

◎スリランカの子どもたち～学校編～

17・18時限「プランテーション」「TSUNAMI」

プランテーションの概要、スリランカの紅茶プランテーションの実態、エステートで生活する人々について説明。また2004年12月に起きたスマトラ島沖地震による「TSUNAMI」の災害について説明し、実際の映像をビデオで紹介、そのすさまじさを学習させる。その上で8ヶ月近く経った被災地の様子をパワーポイントを通して説明していく。(給食の時間に訪問したエステートで取れた紅茶の試飲を行う)

19時限目「働く日本人」

実際にスリランカで国際協力に携わっている日本人について紹介。具体的にどんな活動をしているのか、どういった思いでスリランカに係わっているのかを学習させる。

*JICA 派遣専門家 大隅紀和氏 (黒板プロジェクト)。

*青年海外協力隊員、鈴木氏・石田氏・宮本氏

*シニアボランティア 堤氏 (都市貧困コミュニティー開発地区、TSUNAMI 被災地の援助活動)

*国際 NGO CARE Japan 栗原氏 (プランテーションのエステート居住者の生活改善)

8. 成果と課題

開発教育とは「私たちひとりひとりが、開発をめぐる様々な問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることでできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動」と定義されている。つまり、開発途上国の現状を知って、「こんなに貧しい国があるんだ」とか、「気の毒でかわいそう」と言う感想だけで終わらせてはいけないということになる。とは言え、世界の80%が発展途上国であるということを知らない子どもたちにとっては、まずはそういった国々の現状を知り、身近なものに感じるようにすることが必要不可欠といえる。そういった意味では、発展途上国についての「ガイドマップ」作りは、世界に目を向けさせるきっかけとなり、その活動は常に新たな発見の連続となった。またこれによって開発途上国に対する関心が高まり、次から行われる「スリランカについてのマイクロ学習」に対しても興味を持って入り込むことができた。このスリランカについての授業は、パワーポイントを主に活用して進めたが、机上の学習では感じることでできない、スリランカの人々の温もりや生活のにおいとといったものを、自分が実際に現地へ行って見て、肌で感じたものをそのまま伝えられるよう努めた。また単にスリランカの国を紹介するだけではなく、恵まれた環境ではないはずなのに、「自分達にとって足りないものはない」と言いきった教員の姿勢、家を失っても前向きに生きる人々、貧困の中でも明るく元気に生きる子どもたちの姿から「本当の豊かさ」とは何であるのか。「生きるために本当に必要なもの」とは一体何なのかということを考えることができた。

この学習から学んだことを今後の生活にどう生かしていくのか、共生できる地球社会のためにどう生きていくべきか、といったような事を考える授業を展開していくことが来年度の課題と言える。

スリランカ・ワカランカ？

1. スリランカはどこにある？ ①アフリカ ②アジア ③南米
2. 首都の名前は？ ①コロンボ ②コロムブス ③スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ
3. スリランカの面積はどれに近い？ ①北海道 ②本州 ③沖縄
4. スリランカの人口は？ ①約2000万人 ②約5000万人 ③約8000万人
5. 独立する前はどこの植民地だった？ ①アメリカ ②イギリス ③日本
6. 実際にある都市の名前は？ ①チョコ ②キャンディ ③ガーム
7. 最も信仰されている宗教は？ ①イスラム教 ②仏教 ③キリスト教
8. 主な公用語は何？ ①セイロン語 ②シンハラ語 ③アラビア語
9. では、その公用語で「ママ」とはどういう意味？ ①お母さん ②お父さん ③私
10. 通貨の単位は？ ①ルピー ②元 ③スリランカドル
11. 先生が町中で買ったパンは日本円で1個いくら？ ①8円 ②28円 ③58円
12. 日本車の割合は？ ①50% ②70% ③90%
13. バスに乗車する為、バスを止めるときのジェスチャーは野球の審判のどのポーズ？
①ストライク ②ボール ③ファール
14. 女性の民族衣装の名は？ ①サリー ②ハリー ③ポッター
15. 主食は何？ ①カレーライス ②バターライス ③やきそば
16. スリランカで社会問題となっていることは？
①児童虐待 ②男女差別 ③非行問題
17. 日本のトイレとの違いは？ ①洋式トイレしかない ②紙が置いてない ③扉がない
18. スリランカの学校の制服の色は ①黒 ②白 ③赤
19. 一つの学校に最大何年生まである？ ①6年生 ②9年生 ③13年生
20. 電気が通っている学校の割合は？ ①90% ②60% ③40%
21. 電話が通じている学校はどれ位？ ①80% ②50% ③30%
22. 大学受験では何%が合格する ①7% ②37% ③57%
23. ではその大学生に与えられた特権とは？
①お金がもらえる ②映画が無料 ③大学で紅茶飲み放題
24. スリランカの主要な農産物は？ ①コーヒー ②紅茶 ③ワイン(ブドウ)
25. 単一作物の大規模農場のことを何という？
①プランテーション ②プレゼンテーション ③ステーション
26. スマトラ島沖地震はいつ起きた？ ①2004年5月 ②2004年9月 ③2004年12月
27. TSUNAMIによるスリランカでの死者(行方不明含む)はどれ位？
①約350人 ②約3500人 ③約35000人
28. では全壊した家屋数は？ ①約600軒 ②約6000軒 ③約60000軒
29. 津波被害に対する日本の援助金は約80億円。そのお金で真っ先に手配した物は？
①シャベルカー ②バキュームカー ③ブルドーザー
30. 貧困地区には1994年まで、道も無ければ水道、電気、トイレなど何もなかった。ここに日本の援助が入って、まず整備したものといえば？ ①水道 ②電気 ③トイレ
31. スリランカで活動する青年海外協力隊員の唯一の贅沢とは？
① 月一回ホテルに泊まり、風呂に入ってNHKを見ること。
② 月一回高級なレストランに行き、腹一杯食事をする事。
③ 月一回運転手付で車をチャーターし、史跡等を見に行くこと。